



立田グラウンド整備 市の考えは

近藤 武議員

人が集まる交流拠点へ
教育部長

問 公益財団法人愛知県サッカー協会から、西尾

張地区の拠点として、立田総合グラウンドの芝生多目的グラウンド整備の協議申し入れ書が出され、愛西市も同意した。今後のスケジュールは。

答 現在、協議中だ。

問 現在のグラウンド利用者への影響は。

答 協議を進めていく中で、地域のスポーツ団体及び地域への調整もしながら、理解が得られるようにしていく。

問 現在の立田グラウンドに係る経費は。

答 過去3年間の平均で、支出は約760万円、収入は、約44万円だ。

問 この整備に対する、市の考えは。

答 施設の老朽化が問題となる中、県サッカー協会と協力して、公共施設のリノベーションの先進モデルとなることを目指す。また、地域スポーツの活性化や市に人が集まる交流拠点としての施設になることが期待できる。

今後の子育て支援策は

問 9月議会前に新生愛西クラブ、あいさいクラブ、公明党あいさいの3

会派で、高校生までの医療費助成拡大について、要望書を出し、今議会に関連議案が出た。医療費助成はどうなるのか。

答 幼保無償化により、

これまでの保育費用の財源の活用が可能になった。保育園等の副食代補助の残りの財源の一部に一般財源を上乗せする。

令和2年度から、子ども医療費の支給年齢を拡大し、子育て世代の経済的負担の軽減となるよう、支援の充実を図る。

問 子ども医療費助成拡大後、本市の水準は。

答 県内自治体と比較しても、手厚い助成になる。

問 今後の支援拡充は。

答 子ども医療費のほか、子育て世代への支援策は、様々ある。分析をしながら、事業実施をしていきたい。



▲今後、整備対象となる立田総合グラウンド